

# 南の風 426

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

425号の続きです。

(5) 自分の感情と距離をとる

- ・「学び壊し」は、他者からのダメ出しをされたり、自らを否定したりする作業なので痛みを伴う
- ・心の知能指数「EQ」(Emotional Intelligence Quotient)を高めるべき
- ・「感情に執着すると本質を見失う」、「自分の感情と距離をとる」→自分を俯瞰して見る
- ・指導における「本質的なものの優先順位」を見失わない
- ・自分の感情を「賢く取り扱う」 → 指導者としてさらなる成長
- ・意識を選手の成長に視点を当てる

(6) ペティコミテをやめよう

- ・組織の中での派閥やヒソヒソ話はNG
- ・自分と相容れない意見の人と距離を置きがち → 「受け入れられなかったら、まずは受け止めよう」、多様性の受け止め
- ・自分に耳触りのよいことを言ってくれる人ばかりが周りにいても、成長は望めない

## II 「問いを投げる

(1) 自分の力が及ばないことは気にしない

- ・「勝つ」、「結果」、「相手」というワードが目立つと・・・
- ・「勝つためには・・・」、「相手のエースを抑えるには・・・」 → 「コーチの力でどうにかなるもの?」
- ・指導者が、勝ち負けにどっぷりと意識を奪われていたら、選手の学びや成長に気を配れるはずがない?
- ・「プレスが遅れているよ!」、「ボールミート!」、「ポストに入れろ!」など、指導者が出している「答え」を選手に押しつけることが多くないか?
- ・選手に何ができていて、彼らがどう感じ、何を思い、何に危険を感じ、何に自信をもって判断しているのか、これらは、指導者が答えを押しつけたままでは永遠に分からない。
- ・「自分(指導者)が行動すれば変化が起きる」ことに、集中した方がいい

(2) 自分が行動を変えて起きる変化

- ・指示や、命令が目に見えて減っていく
- ・「勝つためには・・・」という雑念が減る
- ・「問いかける」ことが増える
- ・選手の判断を尊重する
- ・「何を言っても、やっても、受け入れてもらえる」安心・安全な環境こそ、選手は成長することができる

次号にします。